

学内リサイタル講座 特別演奏会

成績優秀者によるスペシャルコンサート

2021年2月25日(木) 17:00開演(16:30開場) 前田ホール

Program

<1部>

打楽器 金 蘭花 Kim Ran Hwa

・石井 眞木/サーティーンドラムス

クラリネット 原田 優 Yuu Harada

・C.サン＝サーンス/クラリネットソナタ

クラシックギター 五十木 翔太 Shota Ikarugi

・R.シューマン/C.マルキオーネ編曲/詩人の恋 Op.48 より

第1曲「うるわしい5月に」

・A.ハリオス/大聖堂

・菅野 祐悟/幸福の硬貨

～休憩～

<3部>

ソプラノ 壽美 華音 Kanon Sumi

・P.チマーラ/獅愁

・F.スキーラ/夢

・J.ベネディクト/みそさざい

<2部>

ピアノ 島田 湧真 Yuma Shimada

・F.シューベルト/F.リスト編曲/12の歌 S.558 より「春の想い」

・リスト/ハンガリー狂詩曲 第二番 S.224

フルート 小牧 茄央里 Kaori Komaki

・J.イベール/小品

・尾高 尚忠/フルート協奏曲 Op.30b より 1楽章

ハープ 大隅 レオナ Reona Osumi

・G.ピエルネ/ハープと管弦楽団のための小協奏曲

クラリネット 杉田 愛実 Ami Sugita

・A.コーブランド/クラリネット協奏曲

Greeting

本日はご来場頂き、ありがとうございます。洗足学園音楽大学では学部4年生を対象に「学内リサイタル講座」を開設し前田ホールにおいて、学生自主企画のジョイント・リサイタル形式による演奏会を開催しております。本日演奏する8名は全6公演から選抜された優秀な学生であります。御来場のお客様には、今後楽壇に羽ばたく若人を温かい拍手で見守っていただきたいと思います。

学内リサイタル講座担当 教授(フルート) 渡部 亨

△新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでの飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

Program Notes

打楽器　**石井 眞木／サーティードラムス**

多種多様な打楽器音楽が存在している中でも、この曲は13個の膜質打楽器のみを使い、金属楽器など長い余韻を有する打楽器、そして音階のある打楽器は一切使用していない。作曲者はこの曲について「太鼓を叩くという原点回帰と、12拍節の定量的なリズムと13拍節の非定量的リズムの交錯に新しい地平を求めるという二つの課題に、シンプルな形で挑戦を試みた作品である」と解説している。石井眞木は、1960年代後半より西欧的技法と日本の伝統音楽の要素による〈二つの音世界からの創造〉を命題として数多くの作品を生み出した。没後 18 年経った今も彼の作品は国内外問わず多くの音楽家に愛され、世界的作曲家としてその名を残している。

石井眞木（左）と石井眞木（右）の演奏風景

クラシックギター　**R.シューマン(C.マルキオーネ編曲)／詩人の恋 Op.48 より 第1曲「うるわしい5月に」**

ロベルト・シューマン(1810-56) は、ドイツのロマン派を代表する作曲家である。ベートーヴェンやシューベルトの音楽のロマンの後継者として位置づけられ、交響曲や合唱曲等幅広い分野で作品を残しており、特にピアノ曲と歌曲においては高く評価されている。《Dichterliebe Op.48》は、Heinrich Heine の詩集「Buch der Lieder」の中の「Lyrisches Intermezzo」を基に 1840 年に作曲された。シューマンは生涯 270 曲以上の歌曲を作曲しているが、1840 年だけで 120 曲以上の歌曲を作曲しているため、シューマンの生涯に於いて 1840 年は歌曲の年とされている。今回は、イタリア出身のクラシックギタリストである Carlo Marchione(b.1964)によってギター独奏版に編曲されたものを演奏する。

石井眞木（左）と石井眞木（右）の演奏風景

クラシックギター　**A.バリオス／大聖堂**

アグスティン・バリオス(1885-1944)はパラグアイのギタリスト・作曲家である。バリオスは 20 世紀の音楽家であったが、その作品は後期ロマン主義音楽の特徴が見受けられ、作品の多くは、中南米の民族音楽に感化されている。今回演奏する《大聖堂》は、3 つの楽章で構成されており、バリオスの宗教体験に触発されている。

第 1 楽章:Prelude(Saudade)	前奏曲。郷愁の副題を持ち、キューバのハバナの大聖堂を訪れた際に故郷を懐かしむ思いから着想したもので、他の二つの楽章よりかなり後に付け加えられた。
第 2 楽章:Andante religioso	大聖堂に集まった信徒たちの祈りの念を、付点音符を用いた葬送のモチーフを使い表現している。
第 3 楽章:Allegro solemne	祈りを終えて外の通りへ出て行く人々の感動の余韻をとどめた足取りを速いパッセージで表現している。

石井眞木（左）と石井眞木（右）の演奏風景

クラシックギター　**菅野 祐悟／幸福の硬貨**

菅野祐悟(b.1977)は、日本の作曲家。東京音楽大学音楽学部音楽学科作曲指揮専攻作曲科映画放送音楽コース卒業。在学中から映画、CM、アーティストに楽曲を提供するなどの活動を行っていた。現在ではドラマからアニメーション、CM、ゲーム等、幅広く活動している。今回演奏する《幸福の硬貨》は、2019 年に公開された映画「マチネの終わりに」の為に作曲された。原作は作家・平野啓一郎の同名の長編小説である。《幸福の硬貨》は、「マチネの終わりに」のエンディングでもこの曲が用いられており、《大聖堂》と共に映画「マチネの終わりに」の中心となる曲となっている。

石井眞木（左）と石井眞木（右）の演奏風景

ピアノ　**F.シューベルト(F.リスト編曲)／12 の歌 S.558 より「春の想い」**

この曲はドイツの詩人ルートヴィヒ・ウーラント(1787-1862)の詩をもとにシューベルトが作曲した歌曲である。今回演奏するのはリストによるピアノ編曲で、原曲にはない技巧的なパッセージや和声の複雑化がみられる。「Frühlingsglaube」はドイツ語で「Frühling(春)」、「Glaube(思い、信仰)」という意味である。「穏やかな風が吹き…」という歌詞から始まるように、花々の新鮮な香りや春の温かい情景が浮かんでくるような曲である。

石井眞木（左）と石井眞木（右）の演奏風景

ピアノ　**F.リスト／ハンガリー狂詩曲 第二番 S.224**

この曲は典型的なチャールダッシュ形式で書かれている。チャールダッシュはハンガリー・ジプシーの代表的な舞曲形式で、哀愁を帯びた穏やかなラッサン(LASSAN)の部分と、情熱的で急速なフリスカ(FRISKA)の部分からなっている。第二番はあちこちに民族音楽の響きが織り込まれている華やかな曲で、カデンツァを抜んだ後、熱狂的に終結する。アニメ「トムとジェリー」で使用されていることでもよく知られている。

石井眞木（左）と石井眞木（右）の演奏風景

ハープ　**G.ピエルネ／ハープと管弦楽団のための小協奏曲**

G.ピエルネは 1863 年にフランスのメスに生まれ、父は声楽教師、母はピアノ教師という音楽一家で育った。幼少期から多彩であったピエルネはパリ音楽院での作曲研究により、ハープの音色に魅了され様々な楽曲を世界で活躍するハーピストたちへ提供した。この小協奏曲は 1901 年に A.アッセルマンとの交友から生まれた楽曲である。その後、より完璧にハープの壮大さや繊細さを表現するため書き直し、2 年後の 1903 年にアッセルマンの教え子である H.ルニエと自身が指揮者を務めるコロヌ管弦楽団によって初演された。流れるようなアルペジオで始まり、エレガントな Allegro moderato.夢を見ているような Andante.活気溢れる Allegro Scherzando の 3 つの楽章で構成され、各楽章でハープの様々なキャラクターが表現されている。劇的で壮大なクライマックスの後、メインテーマの繰り返しと冒頭のアルペジオにより音楽は静かに、平和に終わっていく。

Program Notes

クラリネット　**C.サン＝サーンス／クラリネットソナタ**

サン＝サーンスの死が訪れる年である 1921 年にパリで作曲され、オーギュスト・ペリエに献呈された。作曲者が好んだ簡潔なテクスチュアで書かれ、澄み渡った響きが印象的である。ソナタ形式の楽章を含まずバロック期の組曲に近い性格を持つ。作曲者はこの曲は人生だと語ったと言われている。人生の中で華々しく幸せなこと、身がちぎれるように辛いこと、作曲者はきっと沢山のことを味わってきたのではないかと思うことができるような、様々な工夫を含んでいる魅力が詰まった楽曲である。

石井眞木（左）と石井眞木（右）の演奏風景

ソプラノ　**P.チマーラ／郷愁**

チマーラはイタリアの作曲家、ピアニスト、指揮者である。「郷愁」と言っても、故郷のことを思うものではなく、今は亡き自分の大切な人を思い歌う楽曲である。夕暮れの森の中、一人歩きながらふと感じる恋人の幻影。歌とピアノが絶えず絡み合うような音楽は、側にいるはずがない人の存在を、まるで側にいるかのように思わせる。後半、伴奏部分の三連符は涙を表現しており、現実と非現実の混交した世界感や哀しさが感じられる。

石井眞木（左）と石井眞木（右）の演奏風景

ソプラノ　**F.スキーラ／夢**

夢の中で恋人のリーザとロづけを交わした彼が、その夢と愛が永遠であることを願っている曲である。冒頭に繰り返されるホ長調の旋律と和音はまるで夢の世界へ誘い出されるような音楽になっている。中間部からは、ハ長調に転調し「君のためなら死んでも良い」「死だけがそれを奪うことができる」と、彼女への変わらぬ愛を、劇的な音楽で表現している。その後、一転し、冒頭のロマンティックな夢見るような音楽が再現され、カデンツァを除いて夢見心地のまま、消え入るように曲は閉じる。

石井眞木（左）と石井眞木（右）の演奏風景

ソプラノ　**J.ベネディクト／みそさざい**

ベネディクトはシュトゥットガルト出身のピアニスト、作曲家、指揮者である。ミソサザイとは、全長 10 センチほどで、全身褐色、翼には黒褐色の模様が見える鳥である。その小さな体からは想像できないほど、大きく美しい声で囁り、春の訪れを告げる。春の訪れに草木は挨拶し、そよ風はさやぎ、人は喜びを共に歌う。フルートはミソサザイのさえずり、ピアノは春が来たことによる高揚感や、花が咲き開くような情景を感じさせる。

石井眞木（左）と石井眞木（右）の演奏風景

フルート　**J.イベール／小品**

J.イベールは、パリ生まれのフランスの作曲家である。パリ音楽院で作曲を学んだ後、海軍士官として従軍しその後ローマ大賞を得てローマへ留学。その間にも、イタリアのみならず、スペイン、チュニジアなど様々な国に旅行し、数々の作品の中に、色濃く異国的な印象を残している。彼の作風は、軽妙、新鮮、洗練などと言った言葉で表されることが多いが、この「小品」も同様である。異国的な色を感じさせるようなシンコーペーションのリズムを多く使ったこの曲は洗練されながらも、どこか洒落たような雰囲気を感じさせる。

石井眞木（左）と石井眞木（右）の演奏風景

フルート　**尾高 尚忠／フルート協奏曲 Op.30b より 1 楽章**

尾高尚忠は東京で生まれ、若くしてウィーンで作曲、指揮、ピアノを学んだ。この「フルート協奏曲」は、彼の代表作のひとつでもある。この曲は作曲者の長男である尾高惇忠によるピアノ伴奏版も作られている。本日演奏するのはこのピアノ伴奏版である。この曲は全楽章を通して全体的に明るい流動感が感じられる。1 楽章は全合奏の一打の後、フルートの軽妙な主題が演奏される。この主題がしばらく展開され、第 2 の主題へとつながっていく。第 2 主題は装飾的に展開されていき、その後冒頭の主題がオーケストラで再現される。フルートは主に第 2 主題による展開を演奏し、最後はオーケストラの力強い締めで終わる。

石井眞木（左）と石井眞木（右）の演奏風景

クラリネット　**A.コーブランド／クラリネット協奏曲**

A.コーブランドは、20 世紀アメリカを代表する作曲家のひとりである。1948 年に「スウィングの王様」の異名を持つ、ジャズ界のクラリネットの名手ベニー・グッドマンの委嘱により、作曲された作品。ジャズの要素をふんだんに取り入れるとともに、作曲当時訪れたブラジルのポピュラーソングのメロディーも引用される。この曲は大きく分けて 2 つの部分からできているが、連続して演奏される。冒頭、印象派風のゆるやかな旋律に始まり、カデンツァを経てクラリネットの多彩な音色を生かしたジャズやブルース、ラテン風の音楽が次々と現れる。最後はクラリネットのグリッサンドで、華やかに締めくられる。

石井眞木（左）と石井眞木（右）の演奏風景

Profile

打楽器 金 蘭花 Kim Ran Hwa



埼玉県出身。東京朝鮮中高級学校卒業。4歳より電子オルガン、9歳より打楽器を始める。第26回KOBÉ国際音楽コンクール打楽器C部門最優秀賞、並びに兵庫県教育長賞を受賞。打楽器コースの成績において2017,2018年度に最優秀賞、2019年度に優秀賞を受賞。2018,2020年度前田記念奨学金奨学生に選抜。エマニュエル・セジヨルネ氏のマスタークラスを受講。これまでに打楽器を石井喜久子、古川玄一郎の各氏、電子オルガンを吉川華子氏、室内楽を山本晶子、石井喜久子の各氏に師事。

クラシックギター 五十木 翔太 Shota Ikarugi



神奈川県出身。12歳よりギター合奏を始める。17歳から独奏を始め、小林徹氏に師事。神奈川県大和市立引地台中学校、神奈川県立多摩高等学校在学中に、全国学校ギター合奏コンクールに出場し、2013年～2015年に金賞を受賞。第48回神奈川新人ギタリストオーディション入選。現在は洗足学園音楽大学に在籍し、原善伸、大萩康司、鈴木大介の各氏に師事している。

ピアノ 島田 湧真 Yuma Shimada



富山県出身。ピアノプロフェッショナルパフォーマンスクラス在籍。ラ・フォル・ジュルネ金沢のオーディションに合格し、2010年のサロンコンサートに出演。2019年には現田茂夫指揮の洗足学園フィルハーモニック管弦楽団とラフマニノフ作曲ピアノ協奏曲第2番を共演。その他にもスタインウェイ&サンズ東京のフレッシュジョイントコンサート、宇奈月モーツァルト音楽祭など様々な演奏会に出演。第4回日仏文化協会フランスピアノコンクール最優秀賞受賞。重ねてフランス国内短期音楽アカデミー参加権獲得。第17回大阪国際音楽コンクール Age-H(高校生の部)エスポワール賞受賞。現在ピアノを嶋田陽子、浦壁信二の各師に師事。

ハープ 大隅 レオナ Reona Osumi



神奈川県出身。3歳よりピアノ、6歳よりグランドハープ、トランペットを始める。横浜市立戸塚高等学校音楽コーストランペット専攻卒業。これまでにグランドハープを杉山敦子、室内楽を安藤裕子に師事。2018年よりサラ・クライストによるマスタークラス、景山梨乃による特別講座を受講。

クラリネット 原田 優 Yuu Harada



神奈川県出身。横浜創英高等学校卒業。12歳からクラリネットを始める。2016年下倉楽器ソロコンテストにてヤマハ賞を授賞。2017年日本ジュニア管打楽器コンクール木管アンサンブル部門に木管三重奏で参加し高校1位。2020年浜の風コンクールにて木管五重奏団ロジエで参加し最優秀賞グランプリ。木管五重奏団ロジエでの活動や室内オーケストラ出演など、室内楽を中心に演奏活動を行う。クラリネットを黒尾実、近藤千花子、芳賀史徳の各氏に師事。室内楽を松本健司、辻功の各氏に師事。吉村直子、ペーター・シュミードル、ピエール・ジェニソンの各氏のマスタークラスを受講。

ソプラノ 壽美 華音 Kanon Sumi



高知県出身。土佐塾中学・高等学校卒業。声楽家の母の手ほどきで声楽を始め、17歳より柳澤涼子氏に師事し本格的に声楽を学ぶ。これまでに、被災地、施設、学校、病院などのチャリティーコンサートなどに出演。母と「童謡の会」を開催し、日本の歌を次世代に歌い繋ぐ活動を行っている。洗足学園音楽大学コールファンタジア所属。2019年度、多摩美術大学とのコラボレーションオペラ公演「Cosi fan tutte」にデスピーナ役で出演。またCD付き絵本「はらっぱの妖精」にかおり役で出演。現在、日本ナレーション演技研究所研修科在学中。柳澤涼子氏に師事。

フルート 小牧 栞央里 Kaori Komaki



栃木県出身。8歳からフルートを始める。宇都宮短期大学附属高等学校音楽科卒業、同短期大学音楽科管楽器専攻卒業。読売新聞社主催第88回読売新人演奏会出演。これまでにフルートを中村たか子、崎谷直、渡部亨各氏に師事。室内楽を渡部亨氏に師事。

クラリネット 杉田 愛実 Ami Sugita



茨城県出身。茨城県立水戸第三高等学校音楽科を卒業。4歳よりピアノ、12歳よりクラリネットを始める。第20回日本演奏家コンクール木管楽器部門第2位、合わせて横浜市長賞を受賞。横浜みなとみらいホールにて、入賞者披露演奏会に出演。ピアノ三重奏団エトワールで、収録・配信活動を行う。2019年度、2020年度、洗足学園音楽大学前田記念奨学金奨学生。ピエール・ジェニソン氏のマスタークラスを受講。これまでにクラリネットを柴田真理、千葉直師、芳賀史徳、大浦綾子の各氏に師事。室内楽を山根公男氏に師事。